

車のない街づくりは可能ですか？

まえがき

ガソリンが高騰している。今はマイカーで郊外や市外に行く回数を減らすようにしている。そうすると大した用事もないのに出歩いていたものだと思う。それに、五人乗りの車を一人二人で乗ることや、通勤時間と週末の用事にだけ使うのがもったいないような気もしてきた。ガソリンを使えば地球温暖化にもつながる。今までは地方都市では車が不可欠であることを前提として物を考えてきた。今回は車のない街づくりをするとどんな生活になるかを想像してQ&Aの形で書き出すこととした。

1. どうしたら移動距離が短くなりますか

通勤、通学、通院、買い物、趣味、娯楽、畑、行楽、旅行とどうしても行く必要のある所や行きたい所は色々あります。その頻度も毎日のものから年一回程度のものまで様々です。車が必要になるのは、その目的の場所が自分の住む所から徒歩あるいは自転車圏内がないからです。そこで、イオンのショッピングモールとビッグカメラを足したような建物の中に、各種クリニックと各種スクールと役所の出先を置いた低層の建物を造り、その上に中高層の住宅群をつくって、全体としては中世の城壁都市のようなコンパクトな形にすれば移動距離は最小限で済むはずです。

2. 移動手段はどうしますか

すべての移動を徒歩や自転車で行うわけではありません。荷物の運搬もあれば高齢者や身体障害者には車いすが必要です。保育園・幼稚園やデイサービスには送り迎えが必要です。そこで、車にかわる移動手段を考えてみます。イメージのモデルは電動車いすです。基本的に一人一台で動かし、補助的にフロントに荷物や幼児をのせる台を設けた形です。北欧の市販品では座を電動で押し上げて人を立たせた状態で移動できるもの（床づれを防ぎ、遠くまで見えて気分爽快になるもの）、6輪走行で中央に動力輪があり、その前後の補助輪で階段上下動ができるもの、リヤカーをつけて荷物を運べるようにしたものなどがあります。それらをできる限りコンパクトな形にして省エネにし、さらに、量産により安価にできれば移動手段はある程度解決できるはずです。

3. 移動空間はどうしますか

建物内は広めの通路を使用します。上下移動はエレベータ、エスカレータもしくは階段自走で対応します。自動制御装置で人や物に絶対に当たらないようにします。そうすると基本的に交通事故は無くなる方向に向かいます。常時監視カメラを付けて置けば身の安全を高めることもできます。さらに、自動運転装置で行先を入力すれば最短時間で目的地まで運んでくれます。その間は音楽でも聴きながらパソコンや携帯も使えます。屋外にも通

路は必要です。通路は歩道と同じように群衆加重のみですから、簡単な基礎の上に滑り止め加工をした板を乗せた構造で良いでしょう。その板に太陽光発電のカーボン薄膜を張り付けることができれば、通路で発電して電動車いすに供給することも可能でしょう。また、公園や緑地では車輪の接地圧を小さくすれば、芝生の上を走行することも可能になります。

4. 電動車いすはどこに置きますか

電動車いすは朝食で食卓に座るときから、夕食後に食卓を離れる時までずっと使うことを想定します。そうすると、食卓のイスも学習機のイスも勤務先の事務イスも不要になります。ただし、トイレと運動する時だけ駐輪する必要があります。駐輪スペースがとれない場所では電動車いすを折りたたむか、滑車で複数台を吊り上げるような装置が必要になります。

5. 建物外での雨対策や空調はどうしますか

雨対策や空調は、電動車いすにフードをかぶせるか通路をポリカーボネイトチューブで覆う方法があります。気候のよい時期は部分的に天窓を開くことができるような可動式の覆いの方が使い勝手が良いと思われれます。

6. 大勢で一緒にでかけたい時はどうしますか

大勢で一緒に行動できるのは車の利点でした。ドライブの楽しみは単に目的地に着くことだけではなく、走行中に同乗者とおしゃべりしたり食べたり飲んだり歌ったりする行為も含まれます。電動車いすでも通路が広ければ並んで同方向に通行できます。通路が狭い場合は縦に並んでハンズフリーで会話するようになります。

7. 郊外や市外、県外に行く時はどうしますか

電車、バスなどの公共交通かレンタカーを使います。それらが電気かハイブリッドで動けば、地球温暖化防止にさらに寄与します。そこから隣の地区までは道路も必要になります。すべての場所で車のない街を展開することは無理があります。限られた範囲の中に新しく創る街で、価値観を共有する人や家族を対象にした街づくり、という設定になります。

さらに、電動車いすの利用者が増えれば、バスや電車の座席を外して電動車いすのまま乗り込んで大型クリップで固定する方法も考えられます。

8. 電気の供給はどうしますか

基本的に電動車いす用の電気は太陽光発電か深夜電力で充電することとし、一定走行分を無料あるいは割引にするのが理想です。ロンドン市内では専用のコンセントがあり、電気自動車の電気代は無料にしています。

9. 街がコンパクトになると息苦しくなりませんか

城壁都市の外側には道路がなくなった分の用地で運動公園や農地を確保します。一世帯で300㎡位の広めの市民農園を造れば、農作業を通して住民同士のふれあいを保ち、安全安心な野菜が食べられるようになります。また、農園の中にダーチャ（自作の作業小屋）を作れば、小さいながら戸建住宅を持ったような気分になれます。

10. 交際範囲が狭まりませんか

地区の大きさとしては1小学校区で5千世帯、人口1万人程度を想定しています。地区内では近所づきあいやPTAや趣味の活動を通して交際範囲を広げていくこととなります。どちらかといえば、子供が中学生以上で通学するところがバラバラになるとか夫婦の職場の方向が異なるような世帯よりも単身者か子供が小さい家庭かリタイア世帯の方が住みやすい街になります。

11. 子供も電動車いすを使うのですか

小学生以上については子供用を開発して使うようになります。小学生以下では親の電動車いすのフロントとリヤに補助席を設けます。基本的に免許は不要ですが、操作訓練は行います。

12. 街歩きの楽しみがなくなりませんか

住宅棟は画一的な形ではなく、スペインの細い小路のある街区のように舗装の一部を石畳風にしたり、門の中にパティオを作ったり、外廊下を散歩しながら家の外観を楽しめるような工夫をします。

13. 犬の散歩はどうしますか

建物内にあるポケットパークか屋外の運動公園の緑地で運動することができます。排便は専用のトイレで行い、飼い主が洗浄します。

14. 救急車やパトカーや消防自動車はどうするのですか

緊急用の専用自動車レーンを設置します。なお、使用エネルギーは住宅棟も店舗棟もオール電化として、火災を最小限に抑えます。

15. 地区外でバスや電車から降ろされると、大型量販店の集客は不利ではないですか

地区外の駐車場から大型量販店までを専用の電動シャトルでピストン輸送します。大画面テレビや高級ステレオなどの高額商品については店での利用権を販売する形とします。電動車いすにマッサージ機能とリクライニング機能を加えれば、同好の仲間とマッサージをして寝転びながら映画を楽しむことができます。

16. コンビニは存続できますか

コンビニは少量多品種の品物を販売状況に応じて常に補給することで店舗が成立しています。そのため、商品搬送用のトラックが常に立寄ることができる必要があります。このような街では、どちらかといえば無駄な交通流を排除する方向にありますので、コンビニは存続できない可能性があります。商品の移動が止まれば昔ながらのよろず屋に戻りますが、生活のスピードをダウンさせることも目的の一つですから、その辺を工夫していく必要があります。

17. 個人のメリットはありますか

マイカー購入費の負担が小さくなります。マイカーは一世帯で普通車と軽自動車の2台を持っている家庭が多いようです。これらを20代から70代の60年間に10年毎に買い替えると、2台計300万円×6回買換え=1800万円となり、これに加えて60年分の車検代と税金と保険代が約10万円×2台×60年=1200万円で合計3000万円の出費となります。これに対して電動車いすは車に比べて構成パーツが少なく、モーターの寿命も長いことから、消耗品の交換のみで対応できそうなので経済的と考えられます。地区内に職場があるか、数社が共同で設けた地区内のサテライトに通勤する状況であれば、地下鉄の発達した大都市のようにマイカーが不要になります。

おわりに

車も道路もない街は、地球温暖化防止に貢献し、交通事故死を減らし、暴漢から身を守り、安全な野菜を自給し、個人が経済的にも助かるというメリットが考えられたが、同時にたくさんのデメリットも出てきた。一番のデメリットは、行きたい時に行きたい所で大勢で行けない、または大量の荷物を短時間に運べないということでストレスが溜まることであろうか。

これを時代の逆行とか不便を強いるものと捉えないで、戦後の物資やエネルギーが不足する中で様々な工夫をしながら生活してきた先人の知恵を学ぶ時代がやっと来たと前向きに考えるべきではなかろうか。そうすれば、今のキューバのように物が無いなら無いなりに楽しい生活が待っているような気がする。